

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成29年2月23日
タイトル	みんなで育てた「くわい」を収穫したよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成29年1月18日（水）福山市立川口小学校5年生87名による「くわい」収穫取材しました。

福山市立川口小学校では、毎年5年生が地元の特産物である生産量日本一の「くわい」を学校内で栽培し、農家の方から「くわい」栽培の話を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について学ぶことで郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

6月に校庭のミニ田んぼでくわいを植付け、約半年間くわいを栽培して収穫の日を迎えました。12月には、くわい農家の収穫を見学し収穫について学習しました。農家では水中ポンプの水圧でくわいを掘り収穫しますが子ども達は鍬で掘って、土の中に直に手を入れ、くわいを拾い上げて収穫します。

子ども達は約10人のチームに分かれ、1チームが10分収穫したら次のチームと交替し、収穫を終えたチームは自分達が収穫したくわいを洗浄するように計画し、1組から3組まで9チームに分かれて収穫・洗浄をしました。

当日は、晴れていましたが気温が低く、子ども達は裸足に長靴をはいてミニ田んぼへ入りました。最初は「寒いよ」「冷たいよ」「気持ち悪い」といいながら、恐る恐る足を踏み入れ、素手で触りたくないような仕草をしていましたが、1分もしないうちに泥だらけも平気になり鍬で掘る子とくわいを拾い上げる子に分かれ収穫しました。



「農家の人もこんなに寒いかな」「当たり前じゃん！もっと寒いはずよ」「くわいがいっぱい出てくる、宝の山じゃな！」と弾んだ声が聞こえ、子ども達が収穫を実体験することで様々な事を感じたり考えたりしている事が伝わってきました。

「ぼくの植えたくわいはこれなんよ。」と教えてくれる子、大きなくわいを見つけると「わあ、見てみて。」と嬉しそうに見せてくれる子、みんな寒さも忘れて、次々にくわいを見つけて服に泥がついてもお構いなしで夢中で収穫しました。

先生が「次のチームと交替する時間になったよ。」と言われても手を止めず収穫しています。「次のチームが収穫するのがなくなるから終わるよ！」と言われ慌々ミニ田んぼから出ていました。



次のチームに収穫を交替したら、つぎはくわいの洗浄です。水道の冷たい水でくわいを1個ずつ丁寧に洗って泥を落としました。最初は「冷たい!」と言っていた子ども達ですが、沢山のくわいを黙々と洗い、洗い終わる頃には手が真っ赤になっていましたが、泥だらけのくわいがピカピカになりました。

洗浄したくわいは、クラスごとに青いタライに入れられました。市場に出荷できるくらい、大きくてきれいなくわいがタライに一杯収穫できました。

収穫したくわいは、子ども達が考案したレシピで調理実習をするそうで、その様子も取材したいと思います。

水土里ネット福山は、子ども達の農業体験に協力することで、農業を通じて「ふるさと」の素晴らしさを伝えられるよう、これからも21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。